

クラス番号	617	担当教員名	篠田道子
テーマ	医療・福祉の多職種で支える意思決定支援		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】①「多職種で支える終末期ケア - 医療・福祉連携の実践と研究」(共編著,中央法規,2018)</p> <p>②「チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方 (第2版)」(共編著,日本看護協会出版会,2015)</p> <p>③「ナースのための退院調整 (第2版)」(共編著,日本看護協会出版会,2012)</p> <p>④「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」(医学書院,2011)、⑤「高齢者の終末期ケアの質を高める4条件とケアマネジメント・ツール」(共編著,中央法規,2010)</p> <p>【論文】「フランス介護保障制度の動向ー地域包括ケアシステムへの示唆と課題ー」健保連海外医療保障 No.107,P11-19,2015 など</p>		

## ゼミナール概要

キーワード：多職種連携、意思決定支援、地域包括ケア、終末期ケア、認知症ケア、退院支援、生活支援

### 目的、内容、方法等：

- 1) 本ゼミは、医療・福祉の多職種で支える意思決定支援をメインテーマにしています。具体的には、終末期ケア、認知症ケア、退院支援、生活支援における意思決定について、多職種でどのように行うのかを丁寧に考えます。
- 2) 意思決定支援の先駆的事例（市町村、病院、高齢者施設、障害者施設など）から学ぶなど実践を大切にしています。また、意思決定支援の場面として、退院支援（MSWの役割）、終末期ケア（尊厳死やアドバンス・ケア・プランニング）、認知症ケア（権利擁護）、生活支援（8050問題や総合相談）などを取りあげて考えます。
- 3) 卒業論文を書き上げるためのスキル（読む、書く、調べる、伝える、聞く）を磨くため、卒論に関連したレポートを年に数回提出してもらいます。
- 4) ゼミ生に獲得して欲しい能力は、多面的に情報収集し、物事を分析し、言語化し、他者の意見や環境の変化に対応しながらしなやかに生き抜く「弾力性」、そして意思を貫き、あきらめない「精神的なタフさ」です。

### ゼミの進め方：

- 1) 3年生の前半は、地域包括ケアシステム、退院支援・終末期ケア・認知症ケアにおける多職種連携などに関する文献や資料を読み、基礎知識の習得を目指します。毎回報告者を決めて、レジュメの書き方、プレゼン方法、質問の仕方を学びます。
- 2) 意思決定支援の先駆的な取り組みを行っている実践現場（市町村、病院、高齢者施設、グループホーム、障害者施設、福祉企業等）に赴き、見学やヒアリングなどフィールド調査を行います。
- 3) 3年生の終わりには卒論のテーマを決め、春休みから少しずつ書き進めていきます。
- 4) 4年生の前半は卒論を執筆し、後半からは国家試験の勉強に本格的に取り組み、全員合格を目指します。
- 5) ゼミ生の希望に出来る限り応じたいと思います。これまで評判の良かったものは、MSW・高齢者施設・企業へのインターシップ、緩和ケア（ホスピス）病棟へのヒアリング、地域包括支援センターが取り組む権利擁護事業の見学です。
- 6) 就職対策として、①模擬面接の実施、②履歴書や自己アピール書の添削、③卒業生が勤務している病院・施設・企業へのインターシップ、④プレゼンテーションスキルのアップなどを実施します。

## 担当教員からのメッセージ

いつでもメールにて受け付けていますので、お気軽にご相談ください ([mshino@n-fukushi.ac.jp](mailto:mshino@n-fukushi.ac.jp))。福祉は『実践の学問』です。そのため、意思決定支援の先駆的事例などのフィールド調査を積極的に行います。私自身の興味関心の範囲がとても広いので、あまり専門性にこだわっていません。主体的に参加し、遅刻・欠席をしない人、前向きな人を希望します。

本ゼミは、先輩や現場で出会った人々のつながりを大切にしています。コンパやフィールド調査を活発に行いたいと思います。2年間のゼミの集大成としての卒論は、ゼミ活動をコツコツ積み重ねていけば必ず書けます。「継続は力なり」で一緒に頑張りましょう！